

ご挨拶



就任のご挨拶

安達 伸生 医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 医学分野 整形外科学 教授

平成28年1月1日付けで、広島大学大学院医歯薬保健学研究院整形外科学教室第5代教授に就任いたしました安達伸生です。私は昭和63年広島大学医学部を卒業し、広島大学整形外科学教室に入局いたしました。その後大学病院および関連病院で整形外科の基礎的研修を行い、平成6年に大学病院に帰局しました。帰局後は越智光夫先生（現広島大学長）のご指導を受け、膝関節外科、スポーツ医学、軟骨再生医療を長年メインテーマとしています。

整形外科は運動器疾患を対象とする専門領域です。運動器とは骨、軟骨、筋肉、靭帯、神経など人体の運動を司る組織や器官のことであり、整形外科医は四肢、体幹の運動器の健康を守る専門家です。現在の高齢化社会による変性疾患の増加、スポーツ外傷・障害、交通事故や労災事故による運動器損傷など整形外科に対する社会的ニーズはますます大きくなっており、整形外科教室を引いる責任の重大さを実感しております。

私たちは大学に勤務する医師として診療、教育、研究の各分野をバランスよく遂行することが大切であることは言うまでもありませんが、医師としての最終的な目標は病める人々に高度で先進的かつ全人的な医療を提供することであろうと思います。そのためには地域社会、国際社会に貢献できる良医の育成とともに独創性に富んだ基礎および臨床研究が重要であり、教育、研究、診療において地域貢献のみならず、国際的にも貢献できるグローバルな人材育成が必要です。その目標達成のためには夢と情熱を持ち続け研鑽することが大切であると考えており、その実現に向けて充実した臨床研修および基礎研究体制を整えていく所存です。

これからも広島大学整形外科を宜しく願いたします。



漢方医学の情報科学化を推進します

飯塚 徳男 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 薬学分野 漢方診療学 教授

このたび、新規に開設されました広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 薬学分野 漢方診療学講座の教授および広島大学病院漢方診療センター副センター長（兼任）を拝命し、平成28年3月1日付で着任致しました。漢方大家・吉益東洞が生まれた広島で本講座を担当できますことは、私にとって大変光栄であり、この機会を授けてくださいました皆様に厚くお礼申し上げます。

私は1989年、山口大学医学部を卒業後、同大学第2外科に入局し消化器外科医として研鑽を積みながら、遺伝子情報に基づく癌診断システムを開発して参りました（LANCET 2003年）。また、漢方寄付講座開設当初より教員として、診療・教育・研究に携わって参りました。私の得意とする研究分野は『システム開発』です。舌写真のデータベースに画像認識技術を応用した舌診断アプリの開発（特許申請準備中）、漢方医の処方データベースから創薬のための方法論の開発（国内・国外特許済）などを手がけており、この漢方情報の科学的基盤を整備し、『日出ずる国の漢方医学』の素晴らしさを広島から世界に発信していきたいと考えています。実臨床では、漢方診療センター長である田妻進教授を中心に、医・歯・薬・保健学の連携による診療および教育に邁進し、また、薬学部においては、臨床薬理学や臨床医学概論等を担当するとともに、漢方薬の基礎研究を推進していきたいと考えていますので、学内の多くの皆様のご指導、ご鞭撻を、何卒宜しくお願い申し上げます。